



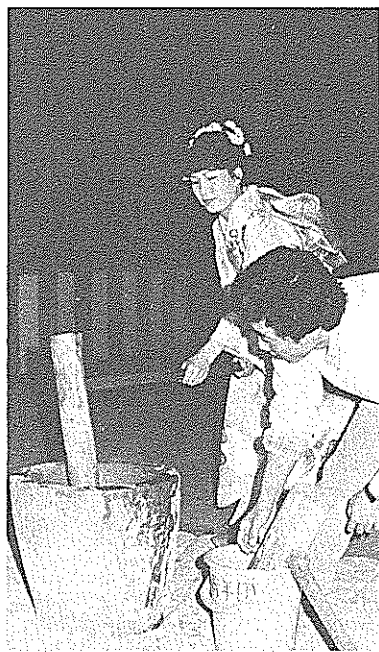
▲20歳の献血には振りそで姿の娘さんたちも協力した。南国市では百余人で、他市より比率は高かった。

恒例のもちつきが今年も登上し、60部、34日をつきあげた。▶

この後、市連合青年団のアトラクションが催され、トップバッターの土佐落語でおなじみの河野昇楽さん(大畑)が会場の緊張したふん息をやわらげ、続く「チャッ

にぎやかな成人式
五百六十二人(男三百十四人、女二百四十八人)の新成人を迎えて、成人式が市民体育館でにぎやかに行われた。
小笠原市長が「厚い本を読んでほしい。枕にも使えるものを、じっくりと読みこなしてください。」と、ユーモアをまじえてあいさつ。これに対し、成人を代表して竹村章孝さんが「大人としての責任をもち、激動する社会に対応できる人間となり、社会の一員となるよう今後も努力する考えです」と謝辞を述べた。

新春トピックス

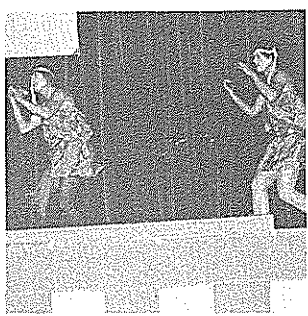


プリン」。「ピンク・レディー」で会場は笑いの渦となった。
成人式でこの様な催しをしたのは今年が初めてのことであり、約二時間の式典を悔しむかの様な熱気だった。
今年には昨年以上に和服姿が目立ち、増々豪華になる服装に、ため息とともに、疑問の声も聞かれた。他に、もちつき、二十歳の献血も行われていた。

初春の「出初め式」

市消防団(福川藤茂団長)の恒例の出初め式が、今年も一月六日、警察学校で行われた。
この日は昨年の寒さと比べ、過ごしやすい一日となり、初春の行事に十二分団三百二十八人(消防本部三十六人)の団員の参加となった。

まず、手帳・服装の点検、器具装備の点検から始まり、今年には消防本部のレインジャー部隊(十三人編成)による「高所人命救助」が披露され、緊張のうちに式典を終わった。



▲青年団のピンク・レディー活躍

▲消防本部のレインジャー部隊の「高所人命救助」



高く、速く跳べ



新春走りの初め

ご用始めの一月四日。恒例の「新春走り初め」が行われ、五十二年へ向けて元気なスタートをきった。
午前九時三十分、市役所玄関前に、運動服姿の小笠原市長をはじめ、国沢助役ら市職員、浜田(二)体育協会副会長、市内小中学校生徒、スポーツ関係者、一般市民ら約三百人が勢ぞろい。
まず、市長が「高く、速く跳ぶことは人類の進歩を象徴している。みなさん、今年も跳びましょう」とあいさつ。準備体操を行ったあと、元気いっばいのかけ声で、新春の後免の町へとかけだした。途中、日吉神社へ参拝、「今年一年の無事」を祈願した。
一汗かいたあとの午前十時三十分、大会議室で市職員への市長訓示が行われた。
「現在、世界の政治はいき詰っている。政権は安定しているとはいえない。なんらかの改革を求めなくてはならない。
我々の自治体のなかでも、この変革を恐れてはならない。「真・善・美」という言葉があるが、やはり「美」が最高のものであると思う。行政にも、美しく愛のこもったもの、精神の美しいものが理想である。事務の簡素化をはかり住民に快い心を伝えよう。行政の根幹は「心」にある。
まだ年度半ばですが、この「ハードル」を乗り越えよう。みなさんのご尽力をお願いします。」と職員への協力を呼びかけた。
最後に、吉本助役が「今年も、元気で明るく、笑顔で頑張ろう」と、今年一年の決意を述べ、全員で乾杯し、ご用始めの式を終わった。